

日中で違う会食シーン 5つの注意点

「会食」「宴会」というテーマにおいて、日本と中国はいくつか違う点があります。中国人とビジネスをするうえで食事は切っても切れないものにとらえてよいでしょう。中国人にとって食べることは最も重要なことであり、ビジネスだけではなく人間関係を円滑にするある種のツールでもあります。

この資料では、5つの点について、注意すべきことを紹介します。

目次

1

スタートの合図

2

席次/中国的上座

3

食事とビジネス

4

料理は残す

5

誰が払うか



スタートの合図

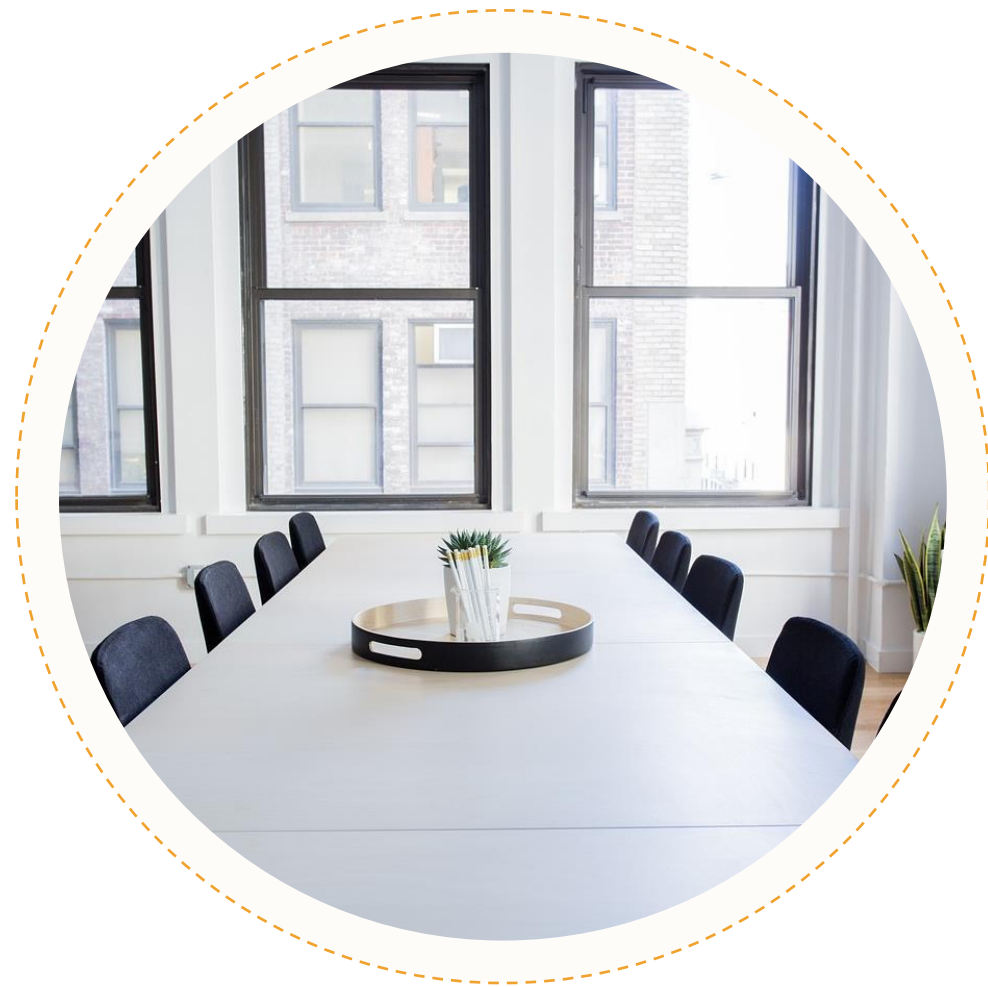
会食の流れ

基本的な順序

- ① 前菜がテーブルに並ぶ
- ② ホスト・ゲストがあいさつする
- ③ 温かい料理が並ぶ
- ④ ホストがゲストに料理を取り分ける
- ⑤ 食事会のスタート

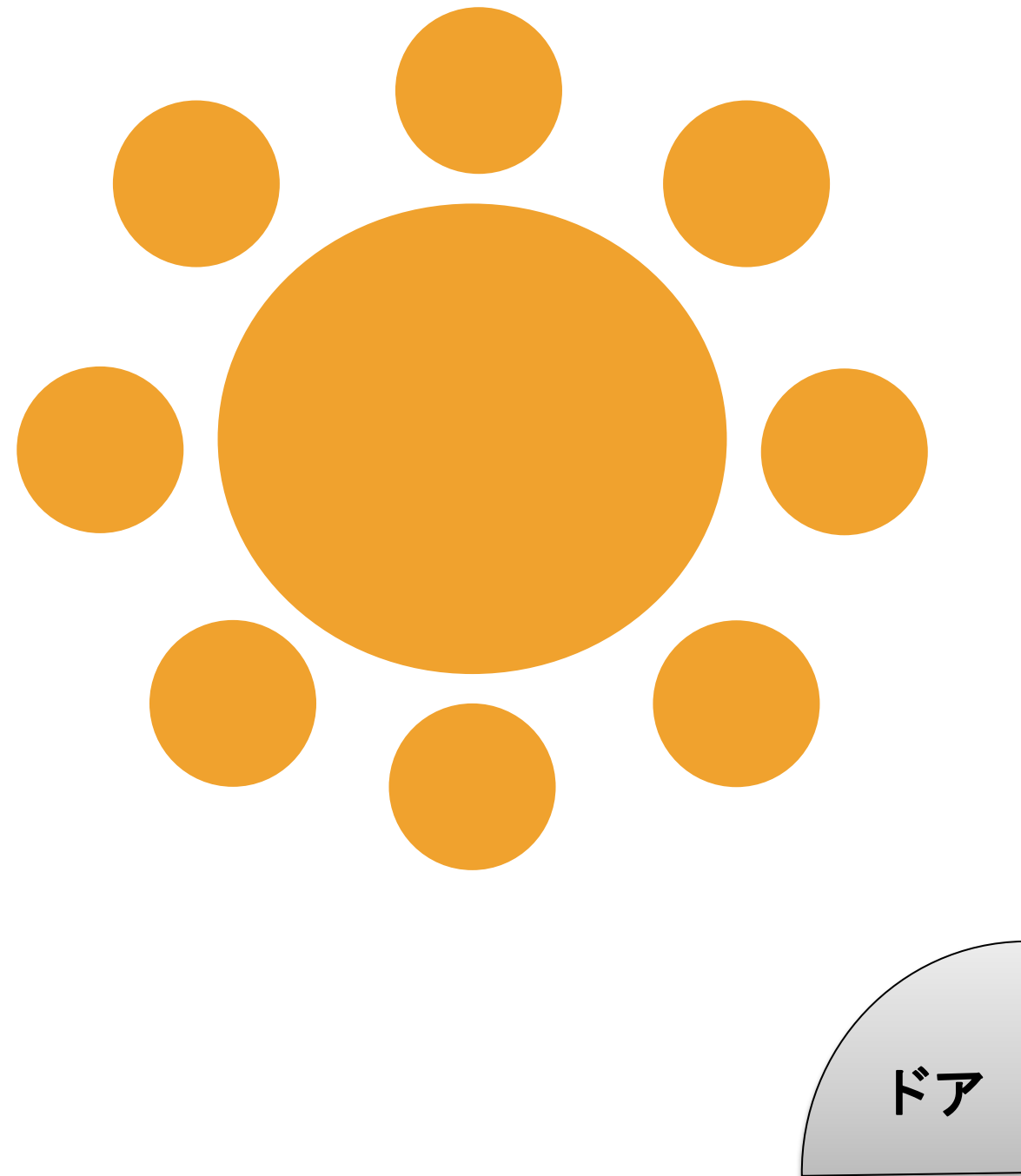


日本では、乾杯したらすぐに自由に各自食べ始めて良いが、中国では、料理を食べ始める前に順序があるので注意が必要。食事スタートの合図があるまで食べたり飲んだりしてはいけない。各地でやり方が違うので、現地の人に聞くのがベスト。



席次 / 中国的上座

中国の席次

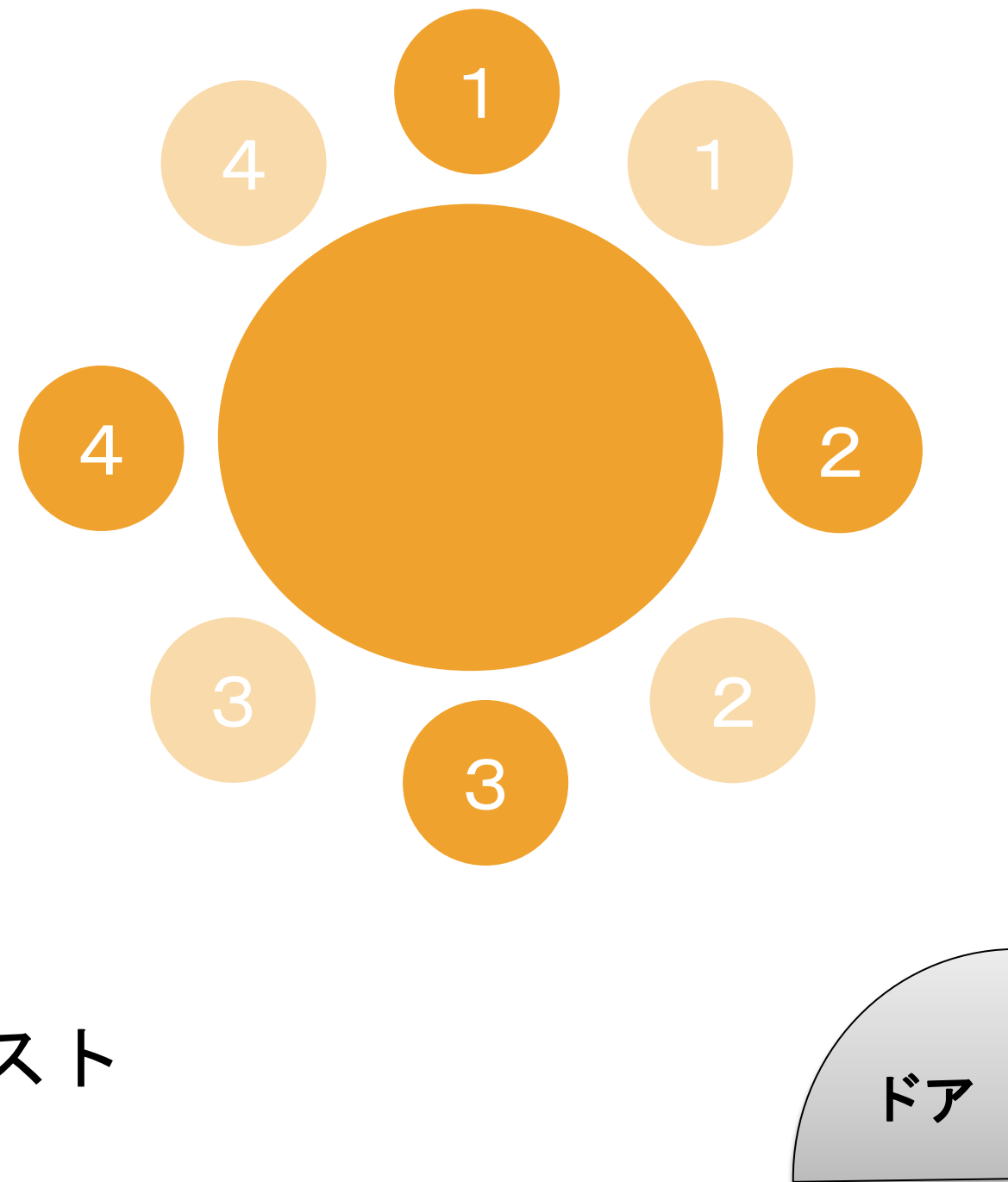


どういう配置が
いいと思いますか？



中国の席次

例：山東省



郷に入っては郷に従え

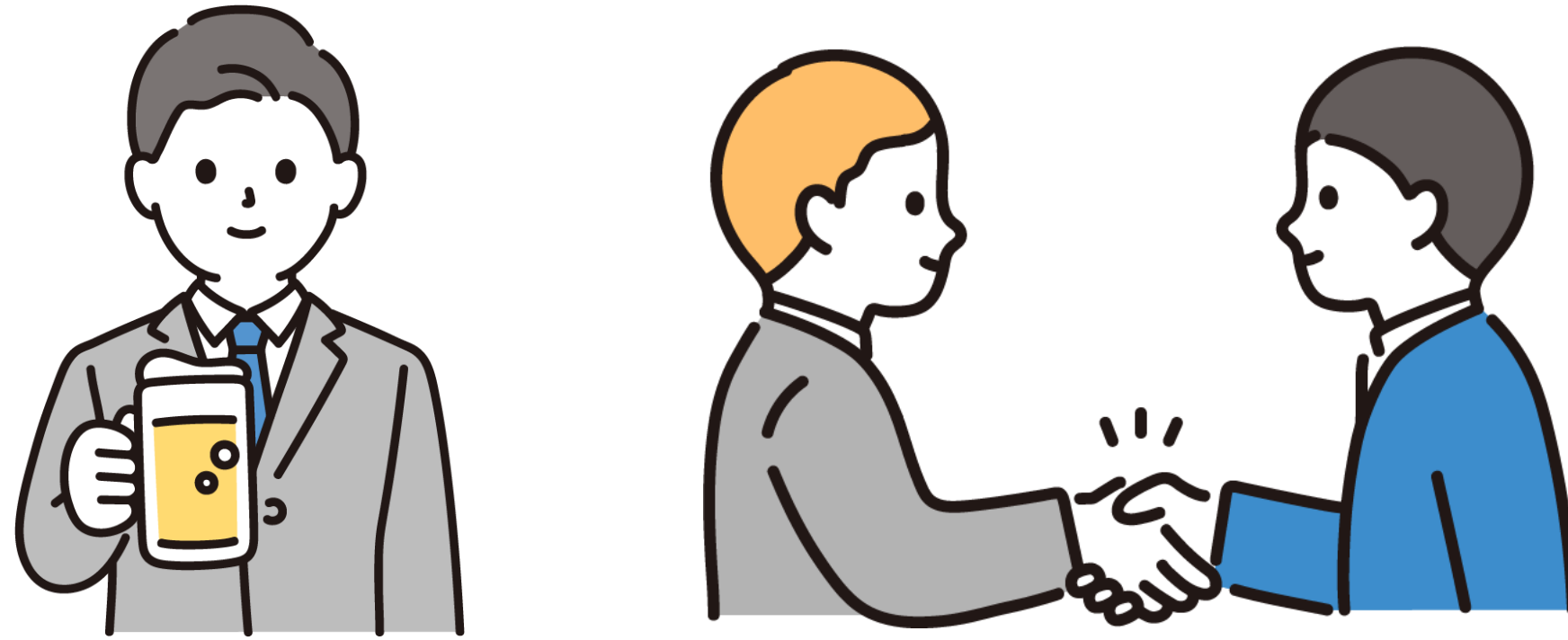
日本には上座下座という概念があるが、中国にも招く側・客側（ホスト・ゲスト）の概念がある。配置はその地域によって異なるため、確認が必要。

場所によっては、テーブルに布ナプキンが置いているところが、それはホスト側の一番地位が高い人の席。



食 事 と ビ ジ ネ ス

会食＝気を抜いてはいけない場



戦場のようなもの？

中国の会食では人脈の形成や契約の落としどころを探るなどあらゆることが行われており、それについて中国人の中には「戦場に行く」ようなものだという人もいる。





料理は残す

ホストへの配慮



「もったいない」は不要

ご飯は残さず食べるのが日本的なマナーだが、中国では、料理は残す方がよい。その考え方は以下の通り。

～料理が残っている～

ホスト側がお腹いっぱいになるまで、料理を用意してくれた。

～料理が残っていない～

ホスト側が十分な料理を用意してくれなかった。

ホストへの配慮



テイクアウト文化

中国では食べきれなかった料理を店にあるプラスチックの容器に入れて持って帰ってもよい。スタッフに頼めば容器をもらえる。
それは普通の事で、はしたない行為ではない。



誰が払うか

割り勘はNG



支払いはホスト側

誘った側

中国では、食事会をする時、誘った人間が食事代を負担する。

そうすることで人間関係に「貸し」と「借り」ができる。貸し借りは返すことになるので、次の食事会は今回誘われた人間が企画し、食事代も負担する。

そうすることで人間関係を深めていく。招待されたら遠慮なくごちそうになること。

割り勘がぁりえるシーン



中国人が割り勘をする時

※最近ではバイキング形式の食事
も流行っており、その場合は各自
自分の料金を払うこともある。

まとめ

- 1 会食の流れ
- 2 上座下座は現地で聞く
- 3 食事とビジネス
- 4 もったいない精神は不要
- 5 割り勘はNG

中国のお酒の席

中国でも日本同様に仕事以外に同僚やお客さんとお酒を飲むことがあります。
日本の飲み会と同じように過ごしていると知らず知らずのうちに中国人の面子を潰してしまっていたり、
築き上げてきた人間関係性を途切れさせてしまう可能性もあるので
事前にしっかりルールを勉強しておきましょう。